

前回の改訂から四半世紀以上が過ぎ、社会情勢や学びの形も様々に変化してきた。一人一台端末が整備され、学校図書館は様々な情報を保有する学校施設として、新たな段階に入っている。そこで、学校図書館の二つの目的である学校の教育課程の展開に寄与すること、児童生徒の健全な教養を育成することと、三つの機能である読書センター、学習センター、情報センターをもつことの観点から、社会の多様化に対応しながら、学校図書館における活動を円滑に実施できるよう、施設基準を見直すこととした。

学校図書館における活動において、児童生徒や教職員が主な利用者と考えられる。児童生徒の活動とは、個別あるいは学級やグループ単位で学習や読書・視聴活動、インターネット利用の学習活動、また自由な雰囲気での読書、教科や教科外活動に関連した各種の制作活動、文化活動、自主的な活動としての委員会活動などが挙げられる。教職員の活動としては、教材等の調査や研究、また制作活動が挙げられる。このような諸活動を円滑に実施するためには、施設上どのような観点・配慮が必要とされるかについて示したのがこの基準である。

基準は、「各スペース」「面積」「施設および設備」「防災・ユニバーサルデザイン」の4部より構成されるが、この基準は、全国どの地域、どの学校においても、学校図書館の活動を達成するためには少なくともこれだけの施設が必要であるという必要最低条件を示したものである。なお、特別支援学校、一貫校の共用図書館、全日制と定時制の共用図書館、また、地域開放を行う図書館などについても、原則としてこの基準を運用する。しかし、これらは、機械的にこの基準を適用するのではなく、その図書館の特性を考慮して、弾力的に対応することが望ましい。

基本原則

- (1) 学校図書館は、専用の施設を設ける。
- (2) 学校図書館は、児童生徒の移動の実際を考慮し、校内の利用しやすい場所に設ける。

1 各スペース

学校図書館施設は、次のようなスペースを設け活動が展開できるようにする。

- (1) 学習・読書スペース
個人やグループ、学級等で、学習したり読書したりするスペース
- (2) ブラウジングスペース
リラックスした雰囲気、雑誌や新聞、読み物などを読むことができるスペース
- (3) 配架スペース
図書、逐次刊行物、ファイル資料、AV資料などの学校図書館資料を配架するスペース
- (4) カウンタースペース
学校図書館資料の貸出し・返却、利用相談などを行うスペース

- (5) スタッフスペース
学校図書館スタッフが作業できるスペース
- (6) 書庫・収納スペース
「配架スペース」に配架された以外の資料で、保存が必要な資料を収納するスペース
- (7) 掲示・展示スペース
ポスター類、文集、発表資料、テーマ図書などを掲示したり、展示したりするスペース
- (8) 蔵書検索スペース
学校図書館に所蔵された各種資料を、コンピュータを利用して検索するスペース
- (9) 教職員の研究スペース
教職員が授業のために学校図書館で研究したり、学校図書館資料を使って教材研究したりするスペース
- (10) 通路スペース
各スペースを利用するために往来するスペース

2 面積

学校図書館の広さは、最低でも同時に2学級が利用できる広さとする。

各スペースの必要最低面積は、表のとおりとする。

それぞれのスペースは画一的に壁で仕切ること避け、配置変更の余地を残して弾力的に計画する。

学校図書館は一か所に各スペースを集中して設置することが望ましい。一か所への集中が不可能な場合で、利用上の関連を考慮し、各スペースが有機的に利用できるよう配置する。

表が入ります。

3 施設および設備

学校図書館の施設及び設備については、以下のように環境を整える。なお間仕切り・設備等は、将来にわたり配置が変更できる計画とする。

- (1) 出入口
車椅子や荷物の搬入等を考慮し、引き戸・自動ドアとすることが望ましい。
- (2) 床
床の構造は、学校図書館資料の増加および利用の変化に対応できるよう床荷重を算入しておく。書架、ファイリング・キャビネット、AV 機器等の設置・移動を考慮し、最低300kg/m²の床荷重を見込んだ構造とする。なお、学校図書館内はブックトラック・電子黒板・車椅子等での移動を考慮し、通路に段差を設けないようにする。
- (3) 壁
壁面は、掲示物の利用スペースとしても確保する。

- (4) 色彩
学校図書館内は、全体的に明るい色調、低い彩度を使用する。
- (5) 吸音と遮音
外部からの騒音を防ぎ、内部での騒音の発生を少なくするため、床・天井・壁面は吸音性の高い素材を使用する。
- (6) 換気・冷暖房・空調
常に適当な温湿度を保ち快適に利用できる設備を整える。
- (7) 遮光
資料の劣化を防ぐため、遮光性の高いカーテンを使用する。
- (8) 放送・通信
校内・校外に連絡できる電話等の設備を設ける。大容量のインターネット回線を整備する。
- (9) 電源・コンセント
配置変更にも対応できるコンピュータ、AV 機器、補助採光のためのコンセントを十分に設ける。コンピュータ、移動書架、コピー機器、空調設備等には、専用電源を設け、学校図書館全体としての十分な電力容量を確保する。
- (10) 給排水
読書衛生の観点から、手を洗う設備を複数設ける。また、スタッフスペースには、流しおよび湯沸かし等の設備を設ける。

4 防災・ユニバーサルデザイン

- (1) 書架
留め金具を設置したり、低書架を活用したりして書架の転倒を防止する。
- (2) 出入口
出入口は、火災や不審者侵入の際の避難経路を確保するため、2ヶ所設ける。
- (3) 掲示物・館内サイン
点字、ピクトグラム、多言語による表示を行い、カラーバリアフリーも考慮する。
- (4) 通路
車椅子等での移動を考慮し、書架と書架、机と机、書架と机の間はその通行ができる通路を確保する。
- (5) 照明
学習や読書、視聴、その他の活動に必要な明るさを確保する。人工照明による机上照度は300ルクス以上(学校環境衛生基準による)とする。光源は昼光色を採用する。机や書架の配置変更にも対応できるように、照明器具は均等に配置する。まぶしさを避け、机上面に利用者自身の影ができないようにする。また、窓面による自然採光も活用する。